

公表 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいあいの丘ふあみり		
○保護者評価実施期間	R8年1月19日		～ R8年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 2	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	R8年1月19日		～ R8年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 16 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護の多機能型事業所のため、幼児から大人までの関わりができるとともに、幼児からの継続した支援が可能。	幼児期だけ関わるわけではなく、また青年期から初めて関わるのでもなく、繋がった支援が可能となっている。他事業所や進学時の学校との連携、情報共有もスムーズに行うことができ、絶え間なく支援を行うということがしやすい環境となっている。	きめ細やかな支援を可能にするため、丁寧な記録、細かな情報共有に心がける。
2	急な事態など、柔軟な対応が可能。	NPOの活動として、有償ボランティア活動もおこなっており、ご家族等の急な事態に迅速に柔軟に対応を行っている。様々な相談に応じることができる体制がある。	保護者などの緊急事態や急な予定変更など、より迅速に柔軟に対応できるよう、体制を整える。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別の部屋の使用が難しい。	生活介護との多機能型事業所であり、構造上個別の部屋の使用が困難。	パーティションやポップアップテントの使用、事業所敷地内の小庭で過ごすなど、状況に応じて個別に対応が必要な際には様々な工夫をして対応する。
2	活動プログラムの立案が弱い。(特に集団活動プログラム)	設備・スペースの基準は満たしているが、生活介護との多機能型事業所のため、集団活動を行う上では困難なことが多い。また、個別活動を行う際にも個々の活動を保障する環境の確保が困難な状況の時もある。	他事業所や全国の取り組みを参考にしたり、情報誌の活用、研修への参加など、色々な活動プログラムを検討し取り組んでいく。 パーティションの活用など、それぞれの活動に応じた環境づくりを考える。
3	地域の他の子どもと活動する機会が少ない。	近隣の保育園とは、避難訓練やクリスマス会などでの交流はあるが、保育園側の予定や都合もあり、定期に交流することができない。	交流の方法や関わり方などを検討し、理解を得られるような取り組みが必要。